

# 帰国報告書

2018年度 日本語教師派遣事業



СВФУ  
СВФЛ

サハ共和国ヤクーツク市 北東連邦大学  
古澤 友基

## I 年間業務日程

[前期] 通常授業：9月上旬から12月下旬まで

－12月中旬よりザチョット(試験なしの合否のみ)

\*冬休み：12月下旬から1月上旬まで

[後期] 通常授業：1月上旬から6月下旬まで

－6月下旬よりザチョット(合否のみと評価付きの2種類)と試験結果を含めての評価

\*前期・後期共に学年により開始・終了時期が異なる。

\*大学や市内の行事によっては終了時期が早まる見込み。

## II 赴任校の概要

【大学名・学長名・学部学科名】

- ◆大学名 : 北東連邦大学  
Северо-Восточный Федеральный Университет  
North-Eastern Federal University
- ◆学長名 : ミハイロヴァ・エフゲーニャ・イサエブナ  
Михайлова Евгения Исаевна  
Mikhailova Evgeniya Isaevna
- ◆学部学科名 : 外国文献学部 東洋言語地域研究学科  
Институт зарубежной филологии и регионоведения  
Кафедра восточных языков и страноведение  
Institute of Modern Languages and International Studies  
Department of Oriental Languages and Country Studies

【所在地】

СВФУ, 58, Белинского, 677000, г. Якутск, Республика Саха (Якутия), Россия

NEFU, Belinskogo St. 58, 677000, Yakutsk City, Republic of Sakha (Yakutia), Russia

【連絡先】

- ◆電話・ファックス番号 : 8(4112)49-68-49
- ◆メールアドレス : [kvyas@mail.ru](mailto:kvyas@mail.ru) (東洋言語地域研究学科)

【国際部担当者・連絡先】

- ◆国際部担当者 : Кугунров Владлен Васильевич  
Kugunrov Vladlen Vasilievich
- ◆連絡先 : 電話・ファックス番号 +7(4112)36-14-53

【日本語教育コース設置年】

2000年

【日本語コース責任者】

- ◆責任者 : ルフォーワ・エレナ・ステパノブナ  
Руфова Елена Степановна  
Rufova Elena Stepanovna
- ◆役職 : 東洋言語地域研究学科長
- ◆連絡先 : 電話・ファックス番号 8(4112)49-68-49

【日本語コースカリキュラム】

- ◆目的 : 当初、文学と地域の研究のみで開始された学科は、アジア言語への興味の高まりにより、2000年に日本語・中国語・韓国語を学ぶための東洋言語地域研究学科が設立となった。

◆概要 : 東洋言語地域研究学科の日本語は第1外国語として、歴史学科や医学部の日本語は第2外国語として履修している。また、報告者が担当している必修科目と選択科目は以下の通りである。

-必修科目: 総合日本語(1年生から修士2年生)

-選択科目: コミュニケーション日本語会話(3年生)、ビジネス日本語会話(4年生)

### 【日本語履修学生数】

報告者が担当した学生数は計40名。歴史学科と医学部は別の教師が担当。

#### ◆東洋言語地域研究学科

1年生: 11名 (他に修士1年生1名が1年生11名と共に学習)

2年生: 3名 (他に修士2年生1名が2年生3名と共に学習)

3年生: 6名

4年生: 9名

修士1年生: 5名 (内1名は今年度から日本語学科生となったため1年生と共に初級から開始)

修士2年生: 6名 (内1名は2年生と共に初級レベルを学習)

計: 40名 (他に7名が日本へ留学中)

#### ◆歴史学科

2年生: 25名

3年生: 11名

計: 36名

#### ◆医学部

歯科医: 22名

薬剤師: 16名

計: 38名

### 【日本語履修学生のレベル】

1年生: 初級(N5～) \* ( )内は日本語能力試験(JLPT)としての水準

2年生: 初中級(N4～)

3年生: 初中級(～N3)

4年生: 中上級(～N1)

修士1年生: 中上級(N2～)

修士2年生: 中上級(N2～)

上記は全体としての評価。1年生から3年生まで意欲が低く、半数が授業を休みがち。1年生は学生の半分が休み、N5程の能力もない。2年生はN4取得者がいるが、競争心に欠け、高い目標もない。3年生は今年度から全体の意欲が極端に下がり、態度も急変した学生がいて、要注意。4年生は留学組がN2・N1の高い能力があるが、他はN3程もなくレベル差がかなりある。修士1・2年生は積極的に会話をしたり、多くの漢字を学習したりと、総合的にレベルが高いためN1取得が期待できる。

### 【日本語教師数】

ロシア人(サハ人)教師: 5名 (内1名は医学部専任の日本語教師)

日本人教師: 1名 (報告者)

計: 6名

### 【日本語履修学生の卒業後の進路】

ほとんどの場合、市内の一般企業や語学学校に就職するケースが多い。その際に日本語を使用することはほとんどない。日本語を使用しているケースとして、2名は政府機関に勤務しており、時折日本語でメールのやり取りや通訳を担当している。学生にとっての理想の就職先である。また、1名は観光会社に勤務しており、時折邦人の通訳を担当している。1名は今年度から医学部専任の日本語教師として働いてい

る。その他、市内にある東洋語学学校(日本語、中国語、韓国語)では、卒業生1名や現4年生数名が日本語を教えていて、今後の卒業生の進路の1つとして期待されている。

意欲の高い学生は修士へと進み、将来通訳・翻訳家を目指している。または、日本で何かの仕事につきたいと考えているが、ほとんどの学生は進路が漠然としていて、将来の目標がない者が多い。日本語教師を目指している学生は今のところ聞かない。

### Ⅲ 日本語教育業務

#### 【学年ごとの年間シラバス】

学年	授業名	コマ数
1年生	総合日本語	90分 x 1コマ/週
使用教材	①みんなの日本語 I ③テーマ別語彙・表現・音読(オリジナル) ②会話練習・文法確認・読解教材(オリジナル) ④チャレンジN4：語彙	
活動	宿題は、定期的なテーマ別作文の提出。 会話指導が主。ペアの応答練習を中心に、既習文型を使ったアクティビティーをする。他に、教科書にはなかなか載っていない日常で使う語彙やフレーズも導入。	
評価	ロシア人教師の担当分と報告者の担当分を合わせた総合評価 3つの期間ごとに出席率・宿題提出率・テスト結果等を考慮した評価(①)と、試験期間前にロシア人教師が行なった筆記試験(②)、試験期間中にロシア人教師と報告者が共に行なった会話試験(③)、①から③を合わせて最終的な評価を下した。	
所見	修士学生1名を含めたクラスで、半分以上の学生が休みがち。積極性があまりなく、宿題やテストを告知しても、全く宿題を提出せず、復習もして来なかった。最終評価時は、半数の学生達を合格させるため、ロシア人教師と共に多少頭を抱えたほど。また、総合日本語クラス以外に、ロシア人教師による漢字クラスがある。	

学年	授業名	コマ数
2年生	総合日本語	90分 x 1コマ/週
使用教材	①Kanji Look and Learn Workbook ④漢字たまご初級 ②チャレンジN4：語彙 ⑤JLPT 公式問題集N4 ③総まとめN3：漢字・語彙 ⑥JLPT ミニ問題・解答テクニック(オリジナル)	
活動	宿題は、漢字・語彙調べ、習った漢字を5回ずつ書く練習、日記等。 1年生と同じく、会話指導が主。既習文型を使ってペアの応答練習とアクティビティー。漢字が苦手なクラスのため、漢字を多く扱い、楽しく復習ができるような授業を行なった。また、JLPT 期間中は、JLPTN4に特化した授業を行なった。学内弁論大会期間中は、参考にスピーチのコツを教えつつ、数回ミニスピーチを行った。	
評価	ロシア人教師の担当分と報告者の担当分を合わせた総合評価 3つの期間ごとに出席率・宿題提出率・テスト結果等を考慮した評価(①)と、試験期間前にロシア人教師が行なった筆記試験(②)、試験期間中にロシア人教師が行なった会話試験(③)、学内弁論大会での成績(④)、①から④を合わせて最終的な評価を下した。	
所見	3名と少なく、1名以外は5割の出席率。あまり復習してくるようなクラスではないため、宿題は簡単なものにし、復習を何度も行うような授業が望ましい。特に漢字が苦手である。N4取得者は1名。	

学年	授業名	コマ数
3年生	1. 総合日本語 2. コミュニケーション日本語会話	1. 90分 x 1コマ/週 2. 90分 x 1コマ/週
使用教材	1. ①日本のニュース Video ②総まとめ N3 : 漢字・語彙 ③留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解[中級]+ビデオ教材	④JLPT 公式問題集 N3 ⑤JLPT ミニ問題・解答テクニック (オリジナル) 2. ①テーマ別初中級会話テクニック (オリジナル)
活動	1. 宿題は、漢字・語彙調べ、読解教材の予習、プリントの設問回答等。 前期は、JLPTN3 に特化した授業を中心にした導入型。後期は、多くのビデオ教材を活用して、留学に向けて日本の文化、各都市の特色等を学べる授業を行なった。 2. 宿題は、それぞれのテーマごとの課題提出。 毎回、テーマ別の初中級レベルの会話テクニックを導入・練習を行い、話すことに特化した授業を行った。例：接続詞、擬態・擬音語、俳句、人の誘い方等。	
評価	1. ロシア人教師の担当分と報告者の担当分を合わせた総合評価 3つの期間ごとに出席率・宿題提出率・テスト結果等を考慮した評価(①)と、試験期間前にロシア人教師が行なった筆記試験(②)、試験期間中にロシア人教師が行なった会話試験(③)、学内弁論大会での成績(④)、①から④を合わせて最終的な評価を下した。 2. 報告者担当のクラスで評価付きザチャット 3つの期間ごとに出席率・宿題提出率等を考慮した評価(①)と、授業内で報告者が行なったロールプレイ試験(②)、①と②を合わせて最終的な評価を下した。ザチャット形式だが5A等の評価もつけた。	
所見	前期は意欲が高い学生が多かったが、後期になり急にクラス全体の意欲が落ち、今後も要注意なクラス。今年からの留学でよい方向へ変わり、意欲の高い4年生として戻って来ることを願う。N3 取得者は2名。	

学年	授業名	コマ数
4年生	1. 総合日本語 2. ビジネス日本語会話	1. 90分 x 3コマ/週 2. 90分 x 1コマ/週
使用教材	1. ①日本のニュース Video ②総まとめ N2 : 漢字・語彙 ③留学生の日本語読解・作文編 ④JLPT 公式問題集 N2 ⑤JLPT ミニ問題・解答テクニック (オリジナル)	2. ①敬語ミニクイズ(オリジナル) ②しごとの日本語：ビジネスマナー編 ③しごとの日本語：電話対応の基礎編 ④ビジネスケースで学ぶ日本語

活動	<p>1. 宿題は、漢字・語彙調べ、読解教材の予習、プリントの設問回答、レポート提出等。 多くの日本の書籍を読み、レポートを書くことを中心にした授業を行った。また、JLPT 期間中は、JLPTN2に特化した授業を行なった。</p> <p>2. 敬語の確認・復習を行い、ビジネスマナーを導入しながら、ビジネスの電話応対を中心に会話練習。</p>
評価	<p>1. 報告者担当のクラスで総合評価 3つの期間ごとに出席率・宿題提出率・テスト結果等を考慮した評価(①)と、試験期間中に報告者が行なった筆記試験(②)、①と②を合わせて最終的な評価を下した。</p> <p>2. 報告者担当のクラスで評価付きザチョット 3つの期間ごとに出席率・宿題提出率等を考慮した評価(①)と、試験期間前に報告者が行なったロールプレイ・口頭試験(②)、①と②を合わせて最終的な評価を下した。ザチョット形式だが、5A等の評価もつけた。</p>
所見	<p>毎年、4年生は留学終了組と留学開始組とで学生の入れ替えがあり、授業構成・レベルのバランス調整が難しい。今年度も留学組と留学しなかった学生とのレベル差が大きかったが、留学しなかった学生が休みがちで、レベル差が開くばかりであった。留学組は修士または日本での就職を目指しているため、積極的で、総合力が高い。N2取得者は2名、N1取得者は1名。</p>

学年	授業名	コマ数
修士1年生	総合日本語	90分x2コマ/週
使用教材	<p>①総まとめN2：漢字・語彙 ②日本語読解ワークブック(中級) ③文章テクニック</p> <p>④文法 TRYN 2 ⑤JLPT 公式問題集 N2 ⑥JLPT ミニ問題・解答テクニック(オリジナル)</p>	
活動	<p>宿題は、漢字・語彙調べ、読解教材の予習、プリントの設問解答等。 前期は、ブランクのある学生のために、N3・N2水準の復習が中心。後期は、4年生と同様、読みと書き中心の授業に。特に、文章を書く際のニュアンスや特徴等を詳細に学べるような授業を行なった。また、定期的に日本のニュースビデオを見せることで、時事を知ってもらい、研究に役立ててもらえることを意識した。</p>	
評価	<p>報告者担当のクラスで評価付きザチョット 3つの期間ごとに出席率・宿題提出率・テスト結果等を考慮して、最終的な評価を下した。仕事をしている学生は出席率を入れずに評価をした。ザチョット形式だが5A等の評価もつけた。</p>	
所見	<p>学生全員が留学経験者で、会話力、文法力等総合力が高い。学生はあまり休むこともなく、宿題を必ず提出し、熱心に学習する。特に、漢字や語彙テストでは8、9割正解する。JLPTのN1を目指している。N2取得者は2名。</p>	



学年	授業名	コマ数
修士2年生	総合日本語	前期：90分 x 1コマ/週 後期：90分 x 2コマ/週
使用教材	①総まとめN2：漢字・語彙 ②日本語読解ワークブック(中級) ③文章テクニク	④文法 TRYN 2 ⑤JLPT 公式問題集 N2 ⑥JLPT ミニ問題・解答テクニク(オリジナル)
活動	宿題は、漢字・語彙調べ、読解教材の予習、プリントの設問解答等。 前期は、授業数が少なく、JLPTN2取得に特化した授業を行った。後期は、修士1年生と合同授業で期間が2ヶ月のみだった。主に、日本文化についての文章とビデオを活用して、講義形式の授業を行なった。	
評価	報告者担当のクラスで評価付きザチャット 3つの期間ごとに宿題提出率・テスト結果等を考慮した評価(①)と、6つの課題レポート(②)、①と②を合わせて最終的な評価を下した。ザチャット形式だが5A等の評価もつけた。	
所見	修士1年生と同様、学生全員が留学経験者で、最も熱心なクラスであり、会話力や文法力等の総合力が最も高い。N1取得者はいないが通訳業務等は間違いなくこのクラスから選出することが相応しい。対応力や応用力が素晴らしく、将来、必ずN1が取得できると確信している。	

#### 【個人指導・課外指導】

- ◆極東・東シベリア日本語弁論大会：スピーチ原稿校閲・指導。
- ◆学内弁論大会：企画運営の全て(日程・賞品選定、スピーチ原稿校閲・指導等)。

#### 【反省点と今後の展望】

##### ◆授業

修士と4年生は特に問題なく、濃い授業内容であったと思う。ただ、3年生以下の意欲が低く、予定の授業ができないことが多かった。日本文化を学べるビデオ教材はどのクラスでも好評であったが、もう少し発展させ、活用できたのではと感じる。また、新しい漢字や語彙の導入は短くし、ポートフォリオや作文集等を作成するような授業の方が、学生の意欲に刺激を与えられたのではとも考える。

##### ◆弁論大会

極東・東シベリア日本語弁論大会は、内容がサハ文化に関するものであったため注目されたが、学生があまりに緊張して途中で止まってしまった。大勢の前で披露するような練習をより増やせば、こうした問題が解消され则认为。

学内弁論大会では、昨年度と同様に問題なく時間通りに終わることができたが、例年より数ヶ月遅い時期に開催することになった。なお、日本で準備して来た賞状や賞品は今回も大変好評であった。

#### IV その他の業務、活動

- ◆メールや書類等の確認と校閲：日本語能力試験関係、留学関係、推薦状、ウラジオストクの東方経済フォーラム資料校閲等。
- ◆東洋言語週間での審査員：東洋言語地域研究学科の1年生の劇で審査員を務めた。他に、中国人・韓国人教師が審査員を務めた。
- ◆日本クラブ：今年度はまとめ役が自由にイベントを作っていた模様。主に日本語を知っているロシア人学生が初級日本語を教えたり、市内の囲碁クラブと活動したりしていた。報告者は囲碁の指導やトーナメントに参加。

## V 青年交流

- ◆学生交流 : 日本語学科3年生が企画し、教師や1～4年生、日本人留学生を交えてのクリスマス会を初めて実施した。教師と3年生は互いにプレゼント交換もした。学期の最後にはそれぞれの学年でお疲れ会等も行なった。
- ◆日本人との交流 : 日本人留学生が3名、日本のラーメン店の日本人シェフ1名が滞在中。学生主催の日本人留学生の歓迎会、日本語学科の学生を含めた食事会、囲碁トーナメント出場、ピクニック等様々なイベントに参加。
- ◆東洋語学学校との交流 : 日本語・韓国語・中国語を教えている語学学校で日本人留学生と日本語を学んでいる学習者との茶話会を行った。また日本人留学生や日本人シェフ、日本語学科の学生、日本語学習者等と共にキャンプ場でゴミを拾い、その後ピクニックやアクティビティーを行なった。今後もワークショップや交流会を行う予定。代表は何か日本に関するイベントを月に1回したいと希望している。
- ◆医学部生との交流 : 日本語を学習している医学部生による日本人歓迎会に招待された。伝統の踊り、伝統の儀式、伝統食、サハの歴史についてのプレゼン等でもてなされた。歯科、薬学科でそれぞれ1回行われ、2回とも日本人は贈り物を受け取った。報告者はサハの伝統模様のマグカップと伝統のお守りを受け取った。
- ◆札幌大学の学生との交流 : スカイプを使用して、お互いにロシア語での自己紹介をした。札幌大学に勤務しているロシア人スタッフからの申し出により、この交流会が実現。今後も双方で協力をしていく予定。
- ◆小学校での特別授業 : 約30人の学生とその保護者数人に折り紙を教えた。また、報告者作成の折り紙のドラゴンとピカチュウを寄贈した。

## VI 任地の生活事情

- (1) 電気 : 昨年度のような大規模な停電もなく、安定して使用できた。
- (2) 水・温水 : 比較的安定していたが、季節の変わり目の4、5月は切り替えのためかよく断水になった。断水は数十分から数時間程度。非常用に6ℓの水を貯めていたが、今年度も使用する機会はなかった。
- (3) 生活必需品
  - ◆衣料 : 現地で氷点下50度～60度まで耐えられるジャケットやズボン、手袋、靴下、靴が容易に入手可能で日本と比べて安い。寒さが苦手な場合は現地購入を勧める。中国市場にある偽物ブランドはより安いですが、温かなく、破損しやすい。ブーツ(ウンティー)は温かいが、履き心地がよくなく、滑りやすい。春の水溜りも考慮する場合、日本で防水・防寒の靴の購入を勧める。  
最も寒い時は氷点下50度程で、以下の日本から持参した装備と一部現地購入品で問題なく過ごせた。Columbiaの防水・防寒ジャケット(氷点下30度耐性)、Montbellの防寒・防水ズボン、Montbellの雪山用の靴下と現地購入の羊毛靴下、Montbellの薄手の羊毛手袋と現地購入の狐の毛の手袋、Mammutの薄手の毛糸帽子、Sorelの防寒・防水ブーツ(氷点下32度耐性)
  - ◆水 : 水道水は直接飲めないため、近くの店で6ℓの水を購入。寮の台所で浄水が使えるが、多少茶色であるため、一度沸騰させた方が安全。
  - ◆食料 : 野菜・果物等は主に中国・中東産。スーパーでは品質がよくないため、寮近辺の八百屋での購入を勧める。「Daily Mart」という店でアジア商品が購入可能。価格は日本の2、3倍であるが、日本のカレールー、ふりかけ、インスタント味噌汁、うどん、冷凍餃子、お菓子類等が販売されている。また、日本の折り紙は買えないが、文房具店で日本のものに近い折り紙が大小購入可能。
- (4) 住居 : キャンパス内の学生寮にある教師フロアの1部屋に滞在。1人には十分な広さで、ベッド2台(薄手の枕、シーツ、掛け布団付き)、机、棚、クローゼット、室内には扇風機はないが、エアコンや備え付けのヒーターがある。6月は室内が25度以上になるため、必要な場合は日本からUSB扇風機の持参を勧める。また、枕はかなり薄く、現地購入か日本から持参をすることを勧める。学内のWi-Fiが教室と寮で使えるが、アカウント1つに機器2台のみ対応で、3時間ごとに自動的に切れる。15分程接続を解除した場合、別の機器でもアカウントが使用可能。寮母に頼めば、テレビとアンテナを借りられ、部屋



で見ることが可能。シャワー室とトイレは他の教師と2名で共有し、電子レンジ2台、洗濯機1台、台所2箇所等はフロアで共有。

- (5) 交通の便 : 地下鉄はなく、バスとタクシー。寮から中心街まではバスで20分以内、寮から空港へはタクシーで40分程度。しかし、大学に空港送迎の無料サービスがあり、1、2週間前に予約し、私用旅行でも、出張、帰国時でも利用できる所以活用を勧める。
- (6) 物価 : 他の都市と比べたことがないため詳しくは分からないが、ロシア国内で物価が高い地域と言われている。6ℓの水が20～30ルーブル(以下P)程度。コカ・コーラ500mlは60P程度。タクシーが4km程で150～250P程度。バスが市内で25P。八百屋では店員に気に入られると、多少割引やサービスを受けられる。また、各スーパーでメンバーズカードを作ると10～20%割引される。カードの中には、割引を受けるために2000P以上の商品購入が必要な物もある。
- (7) 治安状況 : どこも明るい街灯があり、夜間に中心街から徒歩で帰宅しても特に問題ない。ただし、女性の場合はタクシー移動が安全。また時折、街中や飲食店で酔った男性のけんかを見かけるので警戒は必要。現地人は外国人に大変興味があり、特に日本人だとわかると多くの場合話しかけて来て、写真撮影等を求められることもある。

## Ⅶ その他

今年度からヤクーツクで日本語能力試験(JLPT)、留学試験等が開始され、学生にとってはより向上心を持てる機会が増えた。また、今年度も多くの学生が日本人の通訳ボランティアをすることができた。学習面だけでなく、実践面でも向上心や意欲を持てる機会が増えてきたと感じる。今後も日本人にサハ共和国を知ってもらい、サハ共和国の人達に日本をより知ってもらえるような機会が増えることを願う。

## Ⅷ 終わりに

大学での手続き、行事、私生活等に十分慣れたおかげで、3年目は最も穏やかな1年に感じた。予想以上に多くの1年生が入学し、今後に期待が持てると思った。しかし、3年生以下ほとんどの学生は学習意欲が極端に低く、今後教師達は気苦労すると思われる。素晴らしい留学制度や卒業後の具体的な進路例をよりアピールし、1年次もしくは2年次の早い段階で目標を決めることが望ましい。今年から北海道大学ではN2取得者でないと奨学金を受けられないというルールに変わり、3年次の冬にはN2を取得しないといけなくなった。過去に3年次でN2水準まで到達した学生は皆高い目標があり、留学中にはN1も楽に取得していた。今後はより JLPT に特化した教え方や意欲を上げるような教え方がより必要になってくると考える。

今後、さらに入学者が増え、学生達が楽しく日本語の授業を受け、才能を伸ばせていけることを願う。

